

## 広島県病院経営外部評価委員会（平成30年度第2回）議事要旨

- 1 日 時 平成30年12月20日（木） 午後3時30分から5時まで
- 2 場 所 広島がん高精度放射線治療センター2階 大会議室
- 3 出席委員 谷田委員長，木原副委員長，香川委員，木倉委員，豊田委員，平谷委員，吉村委員，和田委員
- 4 議 題 平成29年度経営計画の取組状況の評価取りまとめについて
- 5 担当部署 広島県病院事業局県立病院課調整グループ  
TEL (082) 513-3235（ダイヤルイン）
- 6 会議の内容  
事務局から、配付資料について説明が行われた後に、平成29年度経営計画の取組状況の評価取りまとめに関する協議・質疑等が行われた。概要は、以下のとおりである。

### 【質疑応答及び意見】

- (1) 平成29年度経営計画の取組状況に係る評価表（案）について（資料2-2）

委員会評価が分かれている項目、自己評価と委員会評価が分かれている項目を中心に協議等を行った。

（広島病院）

#### ②脳心臓血管医療の強化（委員会評価“◎” or “○”）

委員：新規入院患者数や治療・リハ件数が増えるなど、機能強化が伺えるため、“◎”とした。

委員：新規の評価項目であることや、十分に組み込んだ結果、目標値を達成することができたかどうか判断できなかったため、“○”とした。

委員：数値を見る限りでは、非常に良く頑張っているため“◎”の評価としたが、地域の医療機関や救急隊への広報活動が不十分な点が課題としてある。

委員長：まだまだ期待できることがあるにも関わらず、最初から“◎”の高い評価をしてしまうのはどうであるか。次年度以降に、広い視点でまだまだ進めていくべきことがあると思われ、その取組を行ったうえで、“◎”の評価とした方が良い。

⇒ 各委員の意見を踏まえ、“○”とする。

#### ③成育医療の強化（委員会評価“◎” or “○”）

委員：全体の取組内容から“◎”の評価としたが、生殖医療科の重点指標である採卵件数の目標未達成の原因分析や、NICUの後方病床との連携など、課題が残されている。

委員：目標を達成し、非常に努力されていることが見受けられ、“◎”の評価とした。

委員：NICU・GCUなどの実績から“◎”の評価としたが、採卵件数の目標未達は課題である。

委員長：成育医療の最後の砦として、県下の医療機関との連携がどれほど進んでいるのか、仕組み作りはどう取り組まれていくのか。今年度の取組に期待を込めて、“○”とした方が良い。

⇒ 各委員の意見を踏まえ、“○”とする。

#### ⑬増収対策（委員会評価“◎” or “○”）

委員：委員会評価が、“◎”が4、“○”が3、“△”が1で、意見が割れているように思われるが、委員会評価を“◎”としている。検討対象にすべきではないか。

委員長：増収対策としての取組が事業規模からして小さ過ぎであり、もっと構造的に考えられることがあるのではないかとということで、評価を“△”にした。収益を拡大していくための道筋の示し方が、加算を取るという小さな話ではなく、全体のストーリーを見直してもらいたい。

⇒ 各委員の意見を踏まえ、“○”とする。

⑭費用合理化対策（委員会評価“○” or “△”）

委員：材料費の削減は、頑張ったら下がるものと、不可避のものを見極めないと、取組が的外れになる可能性がある。

広島病院長：材料費率は今年度も上昇しており、高度急性期を目指せば目指すほど、必然的に比率が上昇する。

委員：高額な材料を使えば、連動して収入も上がるが、収入が上がらないのに材料費だけが上がっていないか、ここがポイントとある。また、材料費率の分析は、オブジーボのような高額薬品を除外して分析しないと、適正な材料費の増加なのかどうか判断できない。材料費率は全体で考えるのではなく、取り組めるものと、そうでないものとに分けて、より細かく分析し、目標値の立て方も検討し直してほしい。

委員長：費用合理化対策として、使用した材料がきちんと収益化されているかどうか、モニターできる仕組みが必要。また、費用対効果として、使用した薬がきちんと効果が出ているか、数量が適切であるか、効果や数量に対しての管理が必要。今年度以降、ぜひ取り組んでもらいたい。

⇒ 各委員の意見を踏まえ、“△”とする。

総合評価（委員会評価“◎” or “○”）

副委員長：広島病院はもっと高いレベルを目指していこうとするマインドが職員全体に行き届いていると感じるが、高いレベルを目指す上で、広島病院がどのような病院になろうとしているのかが明確に見えない。また、県全域の医療システムを考えた時に、県立病院としての使命がミッションとしてあると思うが、そこにどう取り組もうとしているのかが具体的ではない。例えば、ドクターカーの導入はチャレンジングな取り組みであると思うが、導入することで広島病院はどのように変わろうとしているのか。

管理者：広島県の医療の問題は様々であるが、大きな問題の一つに救急医療がある。広島病院では院長方針のもと、断らない救急に取り組んでおり、広島市内で救急搬送困難症例を最も多く受け入れている。また、ドクターカーは新生児搬送にも対応するなど、ドクターヘリと一緒に広島県の救急医療の充実に取り組んでいくことが広島病院の使命だと思っている。

委員：国全体では地域医療構想により医療機関毎の役割分担を進めており、同時に新公立病院改革プランでは地域医療構想を踏まえた役割の明確化を掲げている。目標の立て方として、件数が去年より増えた、減ったかの視点も大切ではあるが、これらの構想やプランを踏まえた大きな動向の中での公立病院として果たすべき役割について、目標に掲げ、進捗を点検してもらいたい。これが次回計画作りの前提になると思う。

委員長：細かな経営の話も大切ではあるが、大きな視点で県全域の将来まで見据えた大きな絵を書いてもらい、そことの進捗・進み具合も表現してもらいたい。

⇒ 各委員の意見を踏まえ、“○”とする。

（安芸津病院）

②地域包括ケアシステム構築への貢献（自己評価“○”，委員会評価“◎”）

安芸津病院長：委員会評価では高い評価をしてもらった。取組全体としては非常に良く頑張っており、できる範囲のことはやってきたつもりであるが、数値関係がまだまだ十分ではないとの理由で、自己評価を“○”とした。

委員：安芸津町は住民活動が盛んであり、そこに安芸津病院が出掛けて行って、啓発活動にたいへん熱心に取り組まれている。地域包括ケアはその地域にある資源をどう活かしていくかであり、全国一律のモデルはないが、住民自身が積極的に取り組むことは大切であり、住民の意識を高める安芸津病院の取組全体をPRし、モデルにしても良いのではないか。

安芸津病院長：御調の地域包括ケアとは違い、安芸津地域では、ケアマネを通じて地域の介護施設

等との連携体制を構築しており、ほぼ全ての施設との連携ができています。

委員長：病院の訪問の力が大きければ、在宅療養がしやすい地域作りができる。どの地域も始めから全ての医療資源が揃っている訳ではないため、拠点病院が入院から在宅へ在り方を変えていき、民間が事業化しやすい環境を作っていくことも役割であり、モデルにもなり得る。

⇒ 各委員の意見を踏まえ、委員会評価“◎”は変更しない。

**⑦患者満足度の向上・広報の充実**（自己評価“○”，委員会評価“◎”）

副委員長：目標に到達したかどうかで言うと，“○”である。

委員長：患者だけではなく、地域包括ケアシステムの連携施設の満足度も調査してもらいたい。

委員：高齢化が進行する中で、患者満足度については高齢者目線での安全安心の視点も検討してもらいたい。

⇒ 各委員の意見を踏まえ，“○”とする。

(2) 平成 29 年度経営計画の取組状況に係る評価報告書（案）について（資料 2-1）

資料 2-2 で項目毎の評価を行った後に、評価の総括について協議等を行った。

⇒ 原案ベースで、取りまとめることとする。

(3) その他意見

委員：第 1 回委員会で働き方改革について議論したが、両病院の労働時間等のデータを踏まえて、次回議論できればと考えている。例えば、時間外の労働時間や 36 協定の内容、有給取得や勤務間インターバルの状況などの資料を用意してもらい。

7 会議の資料名一覧

資料 1 会議次第

資料 2-1 平成 29 年度経営計画の取組状況に係る評価報告書（案）について

資料 2-2 平成 29 年度経営計画の取組状況に係る評価表（案）について

資料 2-3 平成 29 年度経営計画の具体的取組状況について（広島病院）

資料 2-4 平成 29 年度経営計画の具体的取組状況について（安芸津病院）